

**「学生による授業評価アンケート」に対する  
教員へのフィードバックアンケート結果  
(報告)**

2007 年度後期

長崎純心大学 大学教育センター

## 教員へのフィードバックアンケートの概要

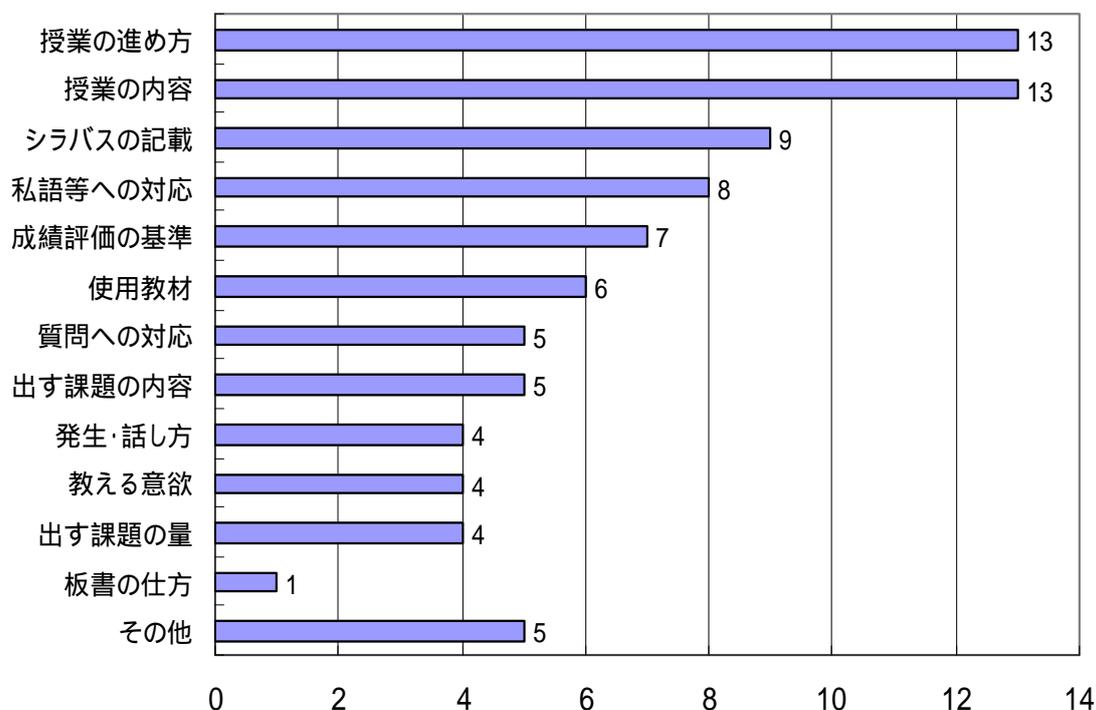
平成 19 年度後期の「学生による授業評価アンケート」の後、教員に対するアンケートを実施しました(平成 20 年 3 月実施)。回収率は、専任教員は 67%(64 人中、43 人)、非常勤教員は 66%でした(102 人中、68 人)。

過去の「学生による授業評価」の実施状況は、3 回目以上が 48 人(専任教員 37 人、非常勤教員 11 名)、2 回目が 25 人(常勤教員 2 人、非常勤教員 23 人)、「はじめて」が 38 人(常勤教員 4 人、非常勤教員 34 人)でした。

## 学生による授業評価アンケート」は授業改善につながるか

授業評価アンケートは、今後の授業の改善につながると思うか尋ねたところ、「とてもそう思う」13 人(32%)、「そう思う」22 人(60%)、「そう思わない」3 人(8%)、「全くそう思わない」0 人でした。「とてもそう思う」「そう思う」合わせると、92%でした。授業改善につながると思うか尋ねた結果、「とてもそう思う」「そう思う」と解答した教員に対して、具体的にどのような点を改善しようと思うかを複数回答可で尋ねたところ、図1のような結果でした。「授業の進め方及び内容」「授業の内容」が最も多く 13 人、次に「シラバスの記載」が 9 人という結果でした。

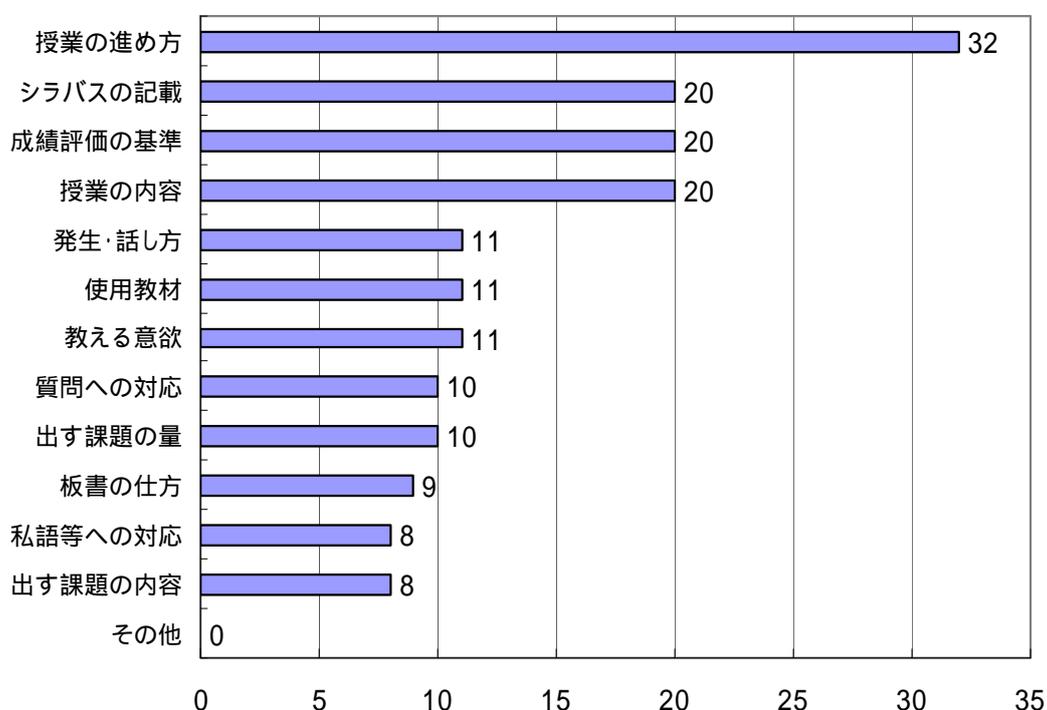
図1 授業で改善したいと思う点(複数回答可) 数字は人数



## 過去の「学生による授業評価」が授業改善に活かされたか

次に、過去に「学生による授業評価」を既実施した教員に対して、それが授業改善に活かされたと思うかどうかを尋ねました。結果は、「大変思う」が12人(17%)、「どちらかと言えば思う」48人(66%)、「あまり思わない」12人(17%)、「全く思わない」0人でした。「大変思う」「どちらかと言えば思う」と回答した教員に対して、授業のどの点を改善したかを尋ねました。その結果が図2です。最も多いのが「授業の進め方及び内容」(32人)、次に「シラバスの記載」「成績評価の基準」「授業の内容」がそれぞれ20人でした。

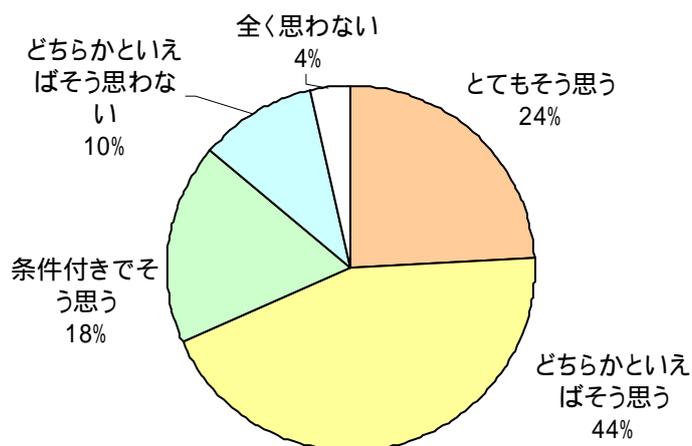
図2 授業改善で特に力を入れたこと(複数回答可) 数字は人数



## 今後の「学生による授業評価アンケート」が授業改善につながるか

今後も全教科での授業評価アンケートを続けることは、授業改善につながると思うかどうかを尋ねたところ、次の図3の結果でした。「どちらかといえばそう思う」が最も多く、全体の44%、「とてもそう思う」が24%、「条件付きでそう思う」が18%、「どちらかといえば思わない」が10%、「全く思わない」が4%でした。常勤教員は「とてもそう思う」が14%、「どちらかといえばそう思う」が38%、非常勤教員は「とてもそう思う」が31%、「どちらかといえばそう思う」48%でした。

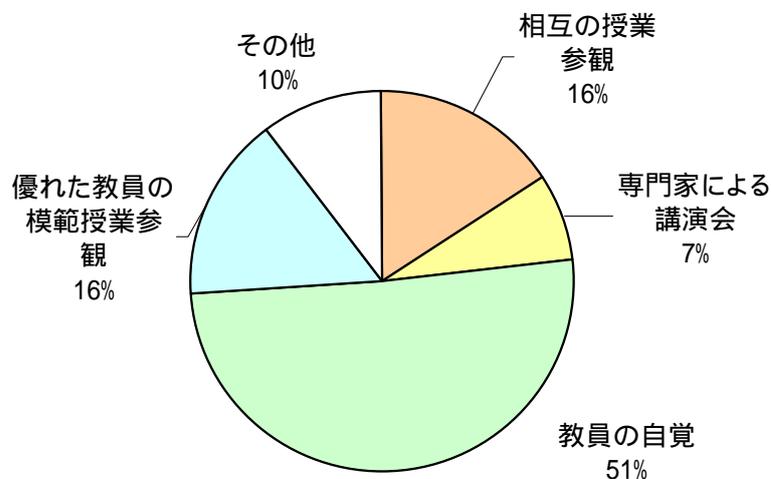
図3 今後の全教科での授業評価アンケートの継続が授業改善につながるか



### 授業改善につながる最上の方法は何か

常勤、非常勤の教員に対して、授業改善につながる最上の方法は何かを尋ねたところ、図4の通り、「教員の自覚」が51%、「相互の授業参観」が16%、「優れた教員の模範授業参観」が16%、「専門家による講演会」が7%という結果でした。

図4 授業改善につながると思う最上の方法



## まとめ

このように、過去「学生による授業評価」を実施し、それが授業改善に生かされたと思う者は、教員に対するアンケート結果によれば、「大変思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせると、83%でした。この結果からほとんどの教員は授業評価アンケートが授業改善で生かされていると考えていることが窺われます。

具体的には「演習の授業における評価の基準を学生に明確にしていなかったので示すように改善した。(専任/授業評価3回目以上)」「成績評価の仕方が明確でないと言われていたので、最初の時間にきちんと説明するようにした。シラバスへの記載どおりになるべく授業を進めるようにした。ビデオなども取り入れるように工夫した。(専任/3回目以上)」「1年生と4年生ではおもしろいと思うことが違うと分かり、工夫した。(専任/2回目)」「生徒がもっとも取り組み易い教材や、授業の運び方に留意した。毎回復習テストなどでインセンティブな授業目標を作るようにした。(非常勤/2回目)」「成績評価の基準を明確に伝え、学生と確認し合うことで提出物や授業への取組が更に積極的にできるようになり、またそれに伴い教材も前年度より有意義に利用できたと思う。(非常勤/2回目)」等の自由記述が見られました。

一方で授業改善に生かされないと回答した教員は少数でしたが、その理由は「全項目が4以上で、極端に低い項目がないので具体的な改善策の直接的参考資料にはならないと思う。(非常勤/3回目以上)」「当たり障りのない評価であるため(非常勤/2回目)」等の自由記述がありました。こうした教員へのアンケート結果からみて、「学生による授業評価」をほとんどの教員が具体的に授業改善へつなげるよう、積極的に活用していると判断できると思います。

「今後の全教科での授業評価アンケートの継続が授業改善につながるか」との質問に対しては、「とてもそう思う」が24%、「どちらかと言えばそう思う」が44%であり、合わせると、約7割の教員が肯定的に考えています。しかし「条件付でそう思う」も18%と相当数います。「条件付で」と回答した教員の自由記述には、「少人数での授業(ゼミ等)の場合、学生は本当のことが書きづらいと思われる)」「少人数の授業では必要ないと思う」「講義・演習などによって設定項目を分けるべき」「教育内容の理想を高く持ち、そのことをよりよく伝えるためのものであれば良いが、アンケートの結果を重視しすぎると全体の授業内容の質が落ちる危険を感じる」等がありました。平成19年度は初めて全教科を対象にして学生による授業評価を行いました。こうした教員の意見も踏まえながら、そのあり方について考えていくことが求められます。

授業改善につながる最上の方法は「教員の自覚」が51%と最多でしたが、「相互の授業参観」16%、「優れた教員の模範授業参観」16%、「専門家による講演会」7%、「その他」10%であり、自らの授業改善のために何らかの形で授業参観を行いたいとの要望がかなりあることが分かりました。その他、授業改善につながる方法としては「教員チームとしての授業計画立案を実施」「模範授業または模範と限らず事例授業をビデオ等で見て教員間で協議する」「学生とのコミュニケーションを深め、表に現れにくい反応(評

価)を把握すること」「卒業生からの意見」「常勤教員、非常勤講師が集まり、意見交換する場を希望する」「期間を設定して自由見学できるようにする」「教員相互の客観的、専門的評価が望まれる。評価する教員は学科長又は同じ専門分野の教員が望ましい」「優秀な学生を数人選定し、担当教員の評価をさせることも一案と思う」等が自由回答として寄せられました。

以上の通り、本学の教員は「学生による授業評価」を前向きにとらえ、具体的に授業改善につなげていることが窺えます。また、授業改善をより進めていくために、具体的な方策についても多くの案が出されています。

こうしたことを踏まえ、大学教育センターでは、今後もより授業改善に結びつくような取り組みを検討し、実施していきたいと思えます。